

第2回 柳沼先生による研修会

H29. 11. 30

柳沼良太先生 岐阜大学大学院教育学研究科准教授 中央教育審議会道德教育専門部会委員

題材 4年 「七宝の里 梶常吉」

1. 授業内容

- ・ 自分たちが住む七宝で生まれた伝統産業、七宝焼についての教材を使用した。主題を希望と勇気、努力と強い意志（A－5）とし、児童が普段の生活の中でも、目標に向かって最後まであきらめないという気持ちをもてるように、指導過程を考えた。
- ・ 主人公は何を悩んでいるのかみんなで考えた後、テーマ発問を『もしあなたが常吉なら、どうしますか。』とし、自分の意思をワークシートに書くとともに、黒板の心情メーターにネームプレートを貼った。
- ・ それぞれの立場での意見を発表し、話し合った後、なぜ松岡屋の主人は常吉に七宝焼を譲ったのかについて考え、再度心情メーターで自分ならと意思表示をした。
- ・ 最後に資料の続きを聞き、どうして常吉は七宝焼を完成させることができたのかを考え、あきらめない気持ちをもつことについて考えさせた。



【研究授業の様子】

2. 授業者の思いや反省について

- ・ 地元に関する教材を取り上げたが、もともとが中学2年生の教材だったため、小学生用に作り直した。しかしながら、長文のため時間がかかるので、前時に読んでおいた。事前に読んでおくことが初めてだったので、心配していたが、よく頭に入っていた。
- ・ 価値の追究のところでは、BやCに動いた。家族も大切にしたいという思いも間違っていないと思う。しかし、今回は『あきらめない』の方向へもっていったが、そのもっていき方が少し強引だったかもしれない。
- ・ 児童同士の意見交流が活発に行われるためにはどうしたらよいか、知りたい。

3. 柳沼先生によるご指導・ご助言

（1） 新学習指導要領の目指すもの・・・「主体的・対話的な深い学び」

<主体的な学び>

児童の興味関心の高い話題で・・・身近な七宝焼きは児童の関心が高かった。

つぶやきの中にこそ本音が見えるので大切にしたい。

<対話的な学び>

子供たち同士の話し合いの場を設定したい。 ペア・四人組もいい

→そこで考えの違いを確かめ合うことが重要

物語の主人公との対話もおもしろい 常吉との対話（先人との対話）

<深い学び>

常吉は何を悩んでいるの？・・・問題の確認は必要

その中で深く掘り下げられるとよい。

AかBの二者択一ではなく、両方の考えを取り入れたCを設定したい。

「子供たちの納得できる最善解を」みんなで見つけていくことも大事になる。

(2) 子供たちに身につけさせい力

① 知識・理解・・・今回も内容を理解させるだけでも大変であった。

② 思考・判断・表現力

・多面的・多角的に考える 多様な見方・考え方ができるように

(父親の立場・松岡屋の主人の立場・母親の立場)

・広がり・深化させるように＝道徳的な価値を自分事として受け止めさせる

→今回の場合は「最後まであきらめない」

・話し合いの中で、ねらいからはずれそうになったときは軌道修正も必要

・今回の場合なら「父親の命の方が大切だ」という意見に対しては

「父は常吉養うぐらいの経済力はある」で切り返す・・・途中で条件の整理を

③ 自己の生き方・社会のあり方を問い直す

→自分は、この教材から何を学ぶことができたか。(教訓を得る)

・自分だけのことではここまでがんばれないが、周りの期待に応えようという気持ちが努力に繋がる。

・成功のためには、さまざまな創意工夫が必要である。運も大切だが、その運をつかむことも努力の賜。

・地域のため・日本のためなど大きな志に支えられると努力も継続できる。

・好きなことだからがんばれる。→夢中になれることを見つけたい。

(3) 森先生の反省から

・ A→Bに流れていく児童が多かったが、教材のどの場面で立場を確認するかで変わってくる。

今回は教材の中に十分道徳的な価値が含まれるので、最終的には十分ねらいが達成できた。



【研修会】

